

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102287
法人名	株式会社 脳リハビリネットワーク
事業所名	ねんりんはうす西都台
所在地 (電話番号)	浜松市西区志都呂町5331-6 (電話) 053-449-6900

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(19年 11月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り 4階建ての3~4階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(420,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(5年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,840 円				

(4) 利用者の概要(11月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県西部浜松医療センター、高橋内科医院、酒井歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大型ショッピングセンターや住宅地、田園が混在する地域に開設され4年目を迎えているホームである。顧問医師の脳リハビリの実践を特徴としたホームであり、早期認知症高齢者を受入れ、在宅復帰者も多数居る特質すべきホームである。利用者の心身機能の維持と向上を図る中で、利用者がその人らしい生活を継続させるために、全ての職員が一丸となって、利用者支援にあたっている。利用者及び家族からの信頼も深く、医療面での充実も特徴の一つとなっている。ホーム内は、清潔に心掛けられ、快適な生活を送れるように心地良い空間づくりがされている。地域や地域住民との交流も積極的に行い、利用者の生活の幅や質の向上にも向けた取り組みをしている。利用者本位で、利用者の目線に立った支援を考えているので、今後の取り組みにも期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 鉄筋4階建ての3~4階にあるホームであり、日常的にエレベーターを使用しているが、暗証番号による利用なので、改善課題とされていたが、暗証番号を表示することを検討しており、実現に期待したい。些細な事柄も職員で話し合い、随時改善する姿勢で取り組んでいる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し、全ての職員が自己評価に取り組んだ。十分な話し合い等がもてず、記入は管理者や主任が中心となってしまったことをホームとして課題に挙げている。定期的に自らを振り返る機会としては、必要性を感じているので、今後も是非取り組んで欲しい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域代表(自治会長・民生委員)、利用者及び家族の代表、市職員、ホーム職員がメンバーとなり、定期的に開催している。利用者の生活の幅を広げる提案を受けたり、ホームの理解を深めるような有意義な話し合いを行っている。また、出された意見はサービスや運営に速やかに反映させるようにしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に家族が毎回交代で出席し、ホームの現状や日常を報告するとともに、意見交換が活発に行われている。家族の訪問時には、声掛けし意見や苦情が言いやすい雰囲気作りに努めている。寄せられた意見は、運営やサービス提供に反映するようにしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム設立準備段階から地元で説明会を重ね、開設後も地域との交流に努めてきた。自治会活動や地域活動にも積極的に参加している。日常の交流で、地域住民との交流は深まり、気軽に立ち寄られるようになってきている。また、地域の理美容院に利用者が行ったり、喫茶店等に立ち寄る等しているため、ホームが真に地域に根付いてきている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	顧問医師が開発した脳リハビリにより、利用者の認知症状態の安定と改善を図る特徴をもちながらも、地域と連携を図り、総合的なサービスを提供することをホーム理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの特徴である脳リハビリに全ての職員が深い理解と信念をもって実践しており、理念の実践のための職員が一丸となって取り組んでいる。職員会議等でその確認も定期的に行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立準備段階から、地域に対するホームや認知症の理解に対する説明会を行ったり、開設後も自治会や地域住民との交流を深めてきた。また、近隣保育園との交流も定期的に行う等、地域の一員となっている。近隣住民が気軽に立ち寄れる関係にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を十分に理解し、自己評価は全ての職員で取り組んだ。全ての項目に全ての職員が関わっていないとのホームの反省もあるが、定期的な職員の話し合い等で、これまでを振り返る機会として取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や自治会関係者、市職員、利用者及び家族で定期的に開催している。ホームへの理解を広げ、利用者の生活の幅を広げるように話し合いを深め、サービスの向上にも繋げようとしている。	○	会議の趣旨を理解し、有意義な取り組みとしている。必要に応じて出席者を増やしたり、運営基準による二ヶ月に一度の開催にする等、今後の取り組みにも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公民館での介護予防教室の講師を務めたり、地区社協で顧問が講師を務める等、認知症に対する理解を深める取り組みを積極的に行っている。市(職員)には必要に応じた連絡を行うが、定期的な事例やケース検討にまで至っていない状況である。	○	保険者である市(職員)に働きかけを行い、地域密着型サービスの充実に向けた定期的な話し合いが実現するように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の生活状況等を伝え、毎月の請求書送付時にも併せて健康状態等を送付している。電話やFAX等も活用し、家族との連絡を定期的に行うように努めている。また、季節ごとにホーム便りを発行する他、介護計画やかかりつけ医への受診結果についても定期的に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に何でも言える雰囲気づくりに努め、運営推進会議で家族代表が交代で出席したり、家族の訪問の際には意見や要望を聞く場面を設ける等している。だされた意見は、職員間で検討し、運営やサービスに反映させるようにしている。	○	気軽に何でもいえる雰囲気と職員の気遣いに感謝している家族アンケート回答が複数寄せられている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職による利用者へのダメージについてよく理解しており、できる限りそれを防ぐように取り組んでいる。ユニット間の移動はあるが、離職も少なく、利用者も安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で3つの委員会(地域交流・危機管理・脳リハビリ)が設けられ、全ての職員がそれに属しながら定期的な研修を行っている。法人内研修の充実と必要な外部研修受講を促進し、職員の質の向上を図っている。また、資格取得に向けても支援が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での職員交流は盛んに行われ、定期的な研修や交流を深めている。市内のホーム間のネットワークもあり、定期的な情報交換や相互相談等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みがあった場合には、利用者及び家族と面談したり、見学を促したりして顔なじみの関係になるようにしている。利用後も利用者の意向や家族からの意見も踏まえて、少しずつその人に合ったサービスを提供するように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や性格等を十分に把握した上で、ホーム内の役割等を一緒に行いながらも利用者寄り添い、利用者にも教えられる姿勢をもつての支援に心掛けている。お互いに喜び合える関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしく充実して生活を送るために、それまでの生活歴や趣味、嗜好を把握した上で、できる限りそれが継続して行えるように取り組んでいる。また、日常生活での言動からも利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向を踏まえ、その人らしい生活を送れるような具体的な介護計画を策定している。また、脳リハビリを取り入れ、現状の心身機能の向上を目指した内容も含めた計画としている。計画内容は職員間で常に共有するようにしており、全ての職員で一人ひとりを支援するように取り組んでいる。	○	認知症の症状を改善することを目的に脳リハビリを計画に取り入れている。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画中に定める期間に応じて、定期的に見直しを行っている。見直しに際しては、それまでのサービス提供方法を振り返り、利用者や家族の希望等を確認して新たな計画とするようにしている。また、利用者の状況に変化があった場合には速やかに変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの特性を理解し、利用者や家族のその時々要望にできる限り応えるようにしている。かかりつけ医への受診や理美容院利用時への同行、外出希望の際への対応等、柔軟に行っている。また、ホームに併設している「脳リハビリセンター」での音楽療法やゲーム等にも参加を促す等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を踏まえたかかりつけ医への受診支援を行っている。定期的な受診と体調の変化時には速やかに受診し、適切な医療が受けられるように支援している。また、常勤の看護師もいるため、利用者の体調管理を適切に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する意向を利用者及び家族から確認し、その方針を定めている。常勤の看護師も居るため、体調の変化があった場合には、協力医等への速やかな受診を行うように定めている。	○	ターミナルケアに対する利用者や家族の希望は様々であると思われるが、今後も希望する対応に向けた検討や家族と連携を図った取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や人格を尊重し、プライバシーを損ねることが無いように接し、言葉掛けやサービス提供の際にも留意し、その確認も定期的に行っている。個人情報についても適切に取り扱うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、その人が望む一日の生活が営めるように支援している。日中の活動もその時々利用者の思いが実現できるように配慮し、散歩や外出への同行等も柔軟に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の嗜好等も踏まえて法人で作成しているが、食事に添える味噌汁作りや食事の盛り付け等の準備、片付け等は利用者とともにやっている。利用者の要望に応じて、外食や喫茶店等にも随時行くようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によりいつでも入浴できるように配慮している。夜間の入浴もできる。入浴の際にはゆったりとリラックスして入浴できるように工夫と支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの状況を把握したうえで、ホームの役割等に自然に利用者が関わっている。また、気晴らしと心身機能の維持と向上を考えたリハビリや、ストレッチ等も行われている。毎日の生活に張り合いが持てるように、趣味活動や楽しみごとが見出せるような支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに閉じこもることが無いように楽しく外出できるように外出支援をしている。毎日午前中に散歩に出かけるようにし、その際に買い物や外食、喫茶店に立ち寄る等もしている。利用者の希望による外出支援にも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける弊害を理解している。しかし、ホームが3～4階であるため、移動の手段としてあるエレベーターの利用には、暗証番号の入力が必要となっている。	○	ホームに行くためには構造上、エレベーターを使わなければならないことは止むを得ないが、職員に声掛けしなければエレベーターが使用できない状況であり、改善を検討している。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、同一建物内での合同の防災訓練を年2回行っている。夜間を想定した訓練も行っている。地域住民に協力が得られるように自治会長との調整も進められている。	○	あらゆる事態を想定し、地域自治会にも働きかけをしているので、具体的な協力が得られるような取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事及び水分摂取量の把握を行い、記録している。また、健康状態等に応じた食事提供方法を工夫するようにしている。食事は厨房でカロリー計算されて提供されるので、栄養バランスにも留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが3～4階に位置しているため、日当たりも良く、居間や台所等も広く確保しているため、利用者はゆったり寛げるようになっている。清潔に整理もされており、快適に過ごせるように支援している。家庭らしい雰囲気づくりに努力している。	○	建物構造上、全く家庭と同様にとは難しいことであるが、できる限りそれに近づけていくように努力している。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ、個性のある居室となっている。利用者が一人ひとりが使いやすく、落ち着ける居室となるように職員も支援している。		